

2021年度 事業報告書

2021年(令和3年)4月1日から2022年(令和4年)3月31日まで

公益財団法人 SOMPO美術財団

I. SOMPO美術館関係事項

新美術館開館2年目となった当年度もコロナ禍での運営となったが、緊急事態宣言に伴う東京都からの要請に従い臨時休館したほかは、概ね計画通りに事業を実施することができた。

1. 美術作品の収集、保存、公開

<1> 展覧会の開催

(1) 「生誕150年記念 モンドリアン展 純粋な絵画をもとめて」

会期:3月23日(火)～6月6日(日) ※4/25～5/31 は臨時休館

共催:日本経済新聞社 協賛:損保ジャパン、野崎印刷紙業

後援:オランダ王国大使館 協力:KLM オランダ航空 企画協力:NTV ヨーロッパ

生誕150年を記念して、オランダのデン・ハーグ美術館所蔵のモンドリアン作品50点、国内外美術館所蔵のモンドリアン作品と関連作家作品約20点を展示し、モンドリアン芸術の広がりを見直し、初期のハーグ派様式の風景画、象徴主義や神智学に傾倒した作品、キュビズムの影響を受けて独自展開した作品、晩年の水平垂直線と原色平面の「コンポジション」まで多岐にわたり、同時に「デ・ステイル」のプロダクトデザインを合わせて紹介、日本で23年ぶりの展覧会となった。

緊急事態宣言に伴う東京都からの休業要請に従い臨時休館したため、開催日数が約半分に短縮し、会期末3日間のチケットが全て完売した。

【関連イベント】

① プレス向け内覧会

(2021年3月22日)

② 展示室内にフォトスポットを設置した。

【主な掲載・放送誌】

日経新聞(4/3、4/18)、E テレ「日曜美術館 アートシーン」(4/11 放送)、フジテレビ「めざましテレビ」(5/6 放送)、アートコレクターズ(3月号)、WEBマガジン「カーサブルータス」、芸術新潮(4月号)のほか、女性誌「ar」、エクラ、雑誌「BRUTUS」、サンデー毎日、週刊文春、週刊朝日、朝日新聞、東京新聞、報知新聞、美術雑誌、その他インターネット、ラジオ等で取り上げられた。

(2) ランス美術館コレクション 風景画のはじまり コローから印象派へ

会期:6月25日(金)～ 9月12日(日)

共催:朝日新聞社 協賛:損保ジャパン

後援:在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本 協力:日本航空

企画・監修:ランス美術館 Exposition produite et gérée par le Musée des Beaux-Arts de la VILLE DE REIMS EN FRANCE. 企画協力:ブレントラスト

本展では、19世紀風景画の充実したコレクションを誇るランス美術館の作品を中心に、油彩、版画など約80点を通じて、フランス近代風景画の成立と展開の歴史をたどった。とりわけ、初期のローマ滞在期から円熟期までを概観できる16点のコロー作品や、ノルマンディーの多様な空模様と陽光への鋭敏な観察眼が発揮されたブーダン作品7点は、本展の大きな見どころとなった。また、風景画発展の背景や当時の風景画受容のあり方をより深く理解する助けとして、戸外制作を推奨したヴァランシエンヌによる理論書などの資料、風景画家自らが制作した版画26点もあわせて紹介した。

【関連イベント等】

- ① プレス向け内覧会 (6月25日)
- ② 来館者にコロー2作品とゴッホ《ひまわり》の写真撮影を許可した。(8月6日～)

【主な掲載・放送等】

朝日新聞(7/8 朝刊、7/13 夕刊、6/30Arts&Culture LINE)、NHKE テレ「日曜美術館 アートシーン」(9/8 放送)、フジテレビ「なりゆき街道旅」(7/18 放送)のほか、毎日新聞、おとなのOFF、サライ、美術雑誌、インターネット等で幅広く取り上げられた。

(3) 川瀬巴水 旅と郷愁の風景

会期: 10月2日(土)～12月26日(日) ※前期は11/14まで、後期は11/17から

共催: 毎日新聞社 協賛: 損保ジャパン 監修: 岩切信一郎(美術史家)

特別協力: 渡邊木版美術画舗 資料提供: 大田区立郷土博物館

企画協力: ステップ・イースト

本展は、風景木版画の代表絵師として新版画を牽引した川瀬巴水の生涯にそって時系列的に組み立て、版画を始めた大正期の第1章、関東大震災を経て作風が変化した時期の第2章、太平洋戦争前後から晩年までの第3章という流れで展示し、最後のコーナーで、アップル・コンピュータの創業者スティーブ・ジョブスを例に、巴水の作品が現代でもなお、国境を越え愛され続けていることを紹介した。

全体で600点以上に及ぶ巴水の木版画の中から、まとめて見る機会の少ない連作を中心に構成、会期半ばで約90点を入れ替え、計約280点を展示した。さらに、写生帖、版木、順序摺、遺品、制作の記録映像等を資料として揃え、旅の版画家、川瀬巴水の神髄を展観する大回顧展となった。

【関連イベント等】

- ① プレス内覧会 (10月1日、5日)
- ② 来館者にゴッホ《ひまわり》を含め、3階展示室の全作品の写真撮影を許可した。

【主な掲載・放送等】

BS-TBS 日本博広報番組「和の學校」(9/27)、フジテレビ「ノンストップ」(11/16 放映) フジテレビ「めざましテレビ『イノ調』コーナー」(12/16 放映)、朝日新聞(10/19 夕刊「美の履歴書」、毎日新聞(10/11 夕刊)、東京新聞朝刊(12/14 朝刊)で紹介された。

上記のほか美術雑誌、インターネット、ラジオ等で幅広く取り上げられた。

(4) 絵画のゆくえ2022

会期: 1月14日(金)～2月13日(日)

共催: 読売新聞社 協賛: 損保ジャパン

FACE2019からFACE2021までの3年間に「グランプリ」「優秀賞」を受賞した12名の新作・近作109点を展示し、受賞作家たちの受賞後の展開を紹介した。

【関連行事等】

- ① 内覧会、プレス内覧会 (1月13日)
- ② 来館者にゴッホ《ひまわり》を含めた全作品の写真撮影を許可した。

【主な掲載・放送等】

読売新聞(1/22 夕刊)、朝日新聞(2/8 夕刊)をはじめ、「美術の窓」「月刊美術」「新美術新聞」のほか、インターネットミュージアムや美術展ナビ等の Web サイトで紹介された。

(5) FACE展2022

会期:2月19日(土)~3月13日(日)

共催:読売新聞社 協賛:損保ジャパン 後援:新宿区

公募コンクール「FACE」の入選作品83点(うち受賞作品9点)を展示した。

【関連イベント】

- ① 表彰式、内覧会、プレス内覧会 (2月18日)
受賞者には表彰盾と作品のポストカードを、入選者には作品のポストカードを、応募者全員に展覧会図録と観覧券を贈呈した。
- ② 来館者にゴッホ《ひまわり》を含めた全作品の写真撮影を許可した。特に、本展で初めてグランマ・モーゼス作品の撮影を許可した。

【主な掲載・放送等】

読売新聞に受賞者決定の広告掲出(2/17 夕刊)、美術の窓、月刊美術、新美術新聞のほか、インターネットミュージアムや美術展ナビ、コンペ情報サイト「登竜門」やCINRA等のWEBサイトで紹介された。

(6) シダネルとマルタン展

会期:2022年3月26日(土)~6月26日(日)

主催:SOMPO 美術館、朝日新聞社 協賛:損保ジャパン

後援:在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本、新宿区

協力:日本航空 企画協力:ブレーントラスト

19世紀末から20世紀前半のフランスで活躍した画家、アンリ・ル・シダネルとアンリ・マルタンに焦点を当てた国内初の二人展。印象派の光の表現を継承し、世紀末の象徴主義をはじめ同時代のさまざまな表現を吸収して独自の画風を確立した二人の足跡を、約70点の油彩・素描・版画による全9章構成で辿る。

身近な人物や風景を親密な眼差しで描いた点で共通する二人だが、北仏と南仏というそれぞれの制作拠点に由来する対照的な光の表現にも着目することで、両者の個性や違いが際立つ展示内容となった。日本では知名度の低い二人の作品をまとめて展観する貴重かつ意義深い機会である。

【関連イベント】

- ① 内覧会、プレス内覧会 (3月25日)
- ② 来館者にゴッホ《ひまわり》とシダネル1点とマルタン2点の写真撮影を許可した。

【主な掲載・放送等】

NHKEテレ「日曜美術館アートシーン」で巡回館として紹介(10/3 放送)、日経新聞(WEB版 3/24 配信、朝刊他 3/26)、NHK 首都圏版ニュース及びNEWSWEB(3/26 放送・配信)、FNNプライムオンライン(3/26 配信)、テレ朝 news(3/26 放送)、TBS「ひるおび」(3/28 放送)、美術雑誌、インターネット等で幅広く取り上げられた。

<2> 展覧会鑑賞支援

(1) 解説動画等

- ① 当館のYouTubeサイトで、「モンドリアン展」「風景画のはじまり」「川瀬巴水展」の解説動画を公開した。
- ② 美術館2階休憩コーナーにおいて、「風景画のはじまり」ではランス美術館を紹介するスライドと次回川瀬巴水展の紹介動画を、「川瀬巴水展」では川瀬の制作風景の映像を、「シダネルとマルタン展」では展覧会紹介動画を放映した。
- ③ 音声ガイドアプリ「ArtSticker」を活用し、「絵画のゆくえ2022」では希望する作家6名の作品と、「FACE展2022」では受賞作家9名の作品解説を実施した。

(2) 図録・解説等

- ① 全ての展覧会において図録を販売した。
- ② 「風景画のはじまり」「川瀬巴水展」「シダネルとマルタン展」のジュニア版ブックレットを作成、販売した。

<3> 展覧会別観覧者数

臨時休館(4/25-5/31)のためモンドリアン展の開館日数は59日から27日に縮小した。

当年度会期	展覧会名 (*は特別展)	開館 日数	有料計	無料計	合計	1日 平均
4/1-6/6	モンドリアン展*	27	14,013	4,418	18,431	683
6/25-9/12	風景画のはじまり*	70	19,603	7,761	27,364	391
10/2-12/26	川瀬巴水展*	73	34,651	11,815	46,466	637
1/14-2/13	絵画のゆくえ2022	27	2,493	1,992	4,485	166
2/19-3/13	FACE展2022	20	2,968	3,325	6,293	315
3/26-3/31	シダネルとマルタン展*	5	1,647	645	2,292	458
合計		222	75,375	29,956	105,331	474
<参考>昨年度合計		139	27,075	16,082	43,157	310

<4> 館蔵品・資料・文献の収集・整備

(1) 収集に関する事項

- ① 美術作品の受贈 (FACEグランプリ受賞作)
新藤杏子《Farewell》2021年 油彩・キャンバス (3月14日)
- ② 美術資料の受託
東郷青児が表示画を描いた雑誌『婦人公論』8冊および『詩學』7点 (6月4日)

(2) 館蔵品展示

常設展示であるゴッホ《ひまわり》のほか、以下のとおり館蔵品を展示した。

モンドリアン展	セザンヌ《りんごとナプキン》 清川泰次《Painting No.48》、堂本尚郎《臨界：水》、 渡辺豊重《風の中の長四角と三角達(8901・S)》、 東郷青児1点、グランマ・モーゼス1点
---------	--

風景画のはじまり	ゴッホ《アリスカンの並木路、アルル》
川瀬巴水展	館蔵品展示なし
絵画のゆくえ2022	館蔵品展示なし
FACE展2022	魏嘉《sweet potato》 ※FACE2021グランプリ 東郷青児作品4点、グランマ・モーゼス作品4点
シダネルとマルタン展	館蔵品展示なし

【主な掲載・放送等】

- ① ゴッホ《ひまわり》とゴッホ《アリスカンの並木路、アルル》
NHKE テレ「ねこのめ美じゅつかん」(9/7 放送、12/21、5/6 再放送)
- ② ゴッホ《ひまわり》
テレビ朝日の番組「中居正広のニュースな会」(1/22 放送)、美術展ナビ「週末いきたい！ やっぱり大好き「ゴッホ」が見られる展覧会・美術館」(3/3 配信)

(3) 館蔵品の保全

- ① グランマ・モーゼス4点のクリーニング作業 (2020年12月～2021年4月)
《古い櫛のつるべ》《古い櫛のつるべ、1760年冬》《プロポーズ》《オールド・ホーム》
- ② ルノワール《帽子の娘》のクリーニング作業 (2020年12月～2021年5月)
- ③ 東郷青児作品11点(油彩6点、スケッチ5点)の修復 (5月～10月)
《パラソルさせる女》《村の祭》《自画像》《巴里の女》《コントラバスを弾く》
《黒い手袋》《サルバドールの女》《サルバドール・バイアの女》
《ダ・クルズの女》《サルバドール・バイアの娘》《裸婦》
- ④ ゴッホ《ひまわり》のメンテナンス (9月)
- ⑤ 収蔵庫の清掃と作品の棚卸を実施 (2月22日)
- ⑥ 損保ジャパン寄託作品の棚卸を実施 (3月2日)
- ⑦ 害虫発生状況の確認結果により、薬剤散布による防虫防除処理の実施なし

(4) 作品・資料等のデータ整備

- ① 当館ウェブサイトにおいて、館蔵品の情報を公開しており、順次画像データの公開と情報の充実に取り組んでいる。当年度は『SOMPO美術館収蔵品目録 東郷青児作品』の全掲載作品の公開が完了した。
- ② 文化庁のアートプラットフォーム事業「全国美術館収蔵品サーチ」(事務局:国立新美術館)の「日本近現代の作家」の枠にデータを提供、2月上旬に公開された。
- ③ 収蔵作品と資料の情報公開を前提に、管理システムをリニューアルした。

(5) 著作権の管理

東郷青児、東郷たまみの著作権は管理規程に基づき適正に管理し、当年度は24件の許諾を出した。

<5> 館蔵品の貸与

作品名	貸与先等
グランマ・モーゼス 油彩9点、刺繍1点	「グランマ・モーゼス展」 あべのハルカス美術館(会期 4/17-6/27) 名古屋市美術館(会期 7/10-9/5) 静岡市美術館(会期 9/14-11/7)、 世田谷区美術館(会期 11/20-2/27)
東郷青児《超現実派の散歩》	「ビジュツカンノススメ」 横須賀美術館(会期 9/18~11/7)
東郷青児油彩17点、中川紀元ほか8点 ゴーギャン、ルノワールほか西洋油彩3点 ピカソ、ルオーほか版画16点等	「東郷青児と前田寛治、ふたつの道」 鳥取県立博物館(11/20~12/26)

<6> 調査・研究

(1) 執筆・講演活動

- ① 「モンドリアン展」「シダネルとマルタン展」図録の論文執筆、翻訳
- ② 「風景画のはじまり」図録の翻訳と執筆
- ③ 図録作成 「絵画のゆくえ2022」「FACE展2022」
- ④ ジュニア版ブックレット作成
「風景画のはじまり」「川瀬巴水展」「シダネルとマルタン展」
- ⑤ 東美ニュース第87号(5月10日発行)に寄稿
- ⑥ 毎日新聞夕刊に「川瀬巴水展」出品作品3点の紹介記事執筆
- ⑦ 「ちとせ橋コミュニティ塾」講座((公財)としま未来文化財団主催)で当館の沿革やコレクションの解説
- ⑧ 「ゴッホ展 響き合う魂 ヘレーネとフィンセント」展(東京都美術館等で開催)完全ガイド(AERA MOOK)への寄稿ならびに作品解説の監修
- ⑨ 「美術の窓」4月号と「新美術新聞」3月21日号に「シダネルとマルタン展」の紹介記事を寄稿

- (2) 10月からコロナ禍において見合わせていた首都圏外への出張を再開し、展覧会巡回館の視察や作品貸与・借用時のアテンド、コンディションチェック等を行った。

2. 展覧施設の運営管理

<1> 施設運営

- (1) 日本博物館協会や国、東京都のガイドラインに従い、適切な感染症対策を実施した。
- ① 入館時の手指消毒、検温、マスク着用、高頻度接触部位の消毒のほか、ショップやカフェ什器の間隔を広げ、トイレのハンドドライヤーの使用を禁止、各階に消毒剤設置、エレベーターへの乗車人数制限等を実施した。
 - ② 日時指定予約システムによるオンラインチケット販売と窓口での当日券販売を併用し、入場者数を適切にコントロールした。「モンドリアン展」と「川瀬巴水展」では完全日時指定制としたが、「風景画のはじまり」では日時指定優先とし、当日枠での入場も可能とした。「絵画のゆくえ2022」と「FACE展2022」では日時予約不要とした。
 - ③ 事務局や館内スタッフに対しては、感染防止対策を徹底させるとともに、職場や家庭において濃厚接触者が発生した場合に備え、抗原検査キットを配付した。

- (2) 展示室、収蔵庫の1年目点検が実施された。(6月11日)
- (3) 収蔵庫清掃、美術館内の定期清掃を実施した。(2月22日、3月10日、11日)
- (4) ビル管理会社(SOMPOコーポレートサービス(株))に協力し、消火設備、自動扉、空調設備等の点検及び動作確認を定期的実施した。

<2> 来館者サービスの提供

(1) ミュージアム・ショップの運営

- ① 展覧会では図録やジュニア版ブックレットのほかオリジナルグッズを受託販売した。
- ② 当館オリジナルグッズの新商品は2022年版カレンダー「グランマ・モーゼス」「東郷青児」のみ。
- ③ 世田谷美術館で開催された「グランマ・モーゼス展」ではグランマ・モーゼスカレンダーを、鳥取県立博物館での「東郷青児と前田寛治、ふたつの道」では東郷青児グッズを委託販売した。

(2) ミュージアム・カフェ等の運営

- ① 4月1日(木)夕刻に、カフェスタッフ1名の感染が判明し、当日夜間に専門業者による該当エリアの消毒を実施、週末と翌週末の営業を休業した。その後、緊急事態宣言の発令やまん延防止等重点措置の適用により10月まで休業を継続、川瀬巴水展会期中の土日祝日に限り営業した。カフェ休業日や営業時間外は自動販売機を利用してもらった。
- ② カフェではレインフォレストコーヒー豆や紙ストロー、木のマドラー等の環境配慮型の商材を使用し、アイス飲料のカップもプラスチック製ではなく紙コップとした。
- ③ カフェでは、東郷青児《超現実派の散歩》または《赤いベルト》のコースターを「シダネルとマルタン展」では東郷青児《ピエロ》または《望郷》のコースターを提供した。

3. 美術鑑賞教育の普及支援

<1> 新宿区小中学生の美術鑑賞教育支援事業

- (1) 「新宿区における美術振興を図るための協働連携に関する覚書」に基づき、(公財)新宿未来創造財団と「新宿区立小学校及び新宿区立中学校の美術鑑賞教育に関する協定書」を締結した。前年度は、コロナ禍において全ての鑑賞会が中止となったため、4月に開催された新宿区立小学校教育研究会(図工部会)で、新美術館での活動要領等を説明した。

- (2) ガイドスタッフによる学校での事前授業支援や美術館での鑑賞会の実施状況は次のとおり。緊急事態宣言に伴い、モンドリアン展会期中の鑑賞会は延期となった。当年度は初めて新宿区立新宿養護学校小学部、中学部でも鑑賞会を実施した。

【事業実施結果】

事前授業	小学校10校 474名、中学校4校 244名 合計 14校 718名	ガイドスタッフ 延べ166名
鑑賞会	小学校27校 1,442名、中学校6校 394名 合計 33校 1,836名、先生 151名	ガイドスタッフ 延べ730名
ガイドスタッフ在籍数 74名 活動延べ人数 896名		

<2> ギャラリー★で★トーク・アート(予約制)

コロナ禍において、一般観覧者を対象にした対話による鑑賞会の実施は見合わせた。

4. 美術家の支援、表彰

<1> 「FACE2022」の選考

(11月15日)

- (1) 業務委託先(ヤマト運輸(株))の倉庫にて審査会を実施し、1,142点の応募作品から「入選審査」と「賞審査」を経て、入選作品83点(うち受賞作品9点)を決定した。審査員は、野口玲一氏(三菱一号館美術館上席学芸員)、大島徹也氏(多摩美術大学准教授)、椿玲子氏(森美術館キュレーター)、藪前知子氏(東京都現代美術館学芸員)、当館梅本武文館長の5名であった。都合により、藪前氏は賞審査から参加した。

- (2) 選考結果は当館及び業務委託先のホームページで公表した。

(11月19日)

賞名	副賞金	作家名	作品
グランプリ	300万円	新藤 杏子	《Farewell》 油彩・キャンバス
優秀賞	各50万円	大山 智子	《AMAKUSA》 油彩・キャンバス
		矢島 史織	《光の森》 油彩・パネル
		石神 雄介	《星を見た日》 油彩・綿布
読売新聞社賞	30万円	只野 彩佳	《彩歩き》 紙本着彩
野口玲一 審査員特別賞	各10万円	マツシタ ユキハ。	《1人で死にたくない 1K》 岩絵具・和紙
大島徹也 審査員特別賞		飯島 ひかる	《お花ランド②》 油彩・キャンバス
椿 玲子 審査員特別賞		堀 花圭	《Mountains sesh》 岩絵具、水干、胡粉、麻紙
藪前知子 審査員特別賞		高橋 洋平	《暗い瓦礫と栄光の瓦礫》 アクリル・廃棄塗料・キャンバス
オーディエンス 賞	3万円	倉田 和夫	BREAD・135 アクリル・麻紙・パネル

- (3) 表彰式・内覧会開催

(2月18日)

表彰式では受賞者を顕彰し、内覧会では入選作家が審査員や美術関係者、マスコミ等とつながる場・機会を提供した。

<2> SOMPO美術館賞の授与

新進美術家の支援・育成を目的とする「SOMPO美術館賞」を美術団体が実施する公募展の平面作品の受賞者20名に授与した。

番号	展覧会名	授与 年月日	受賞者	受賞作品名
1	80周年記念創元展	R3.3.31	内藤 江美	蒼

番号	展覧会名	授与年月日	受賞者	受賞作品名
2	第 74 回示現会展	R3.3.31	加古 博美	朝の散歩
3	第 80 回記念水彩連盟展	該当者なし		
4	第 71 回モダンアート展	R3.4.23	許 芳薇	Lan
5	第 107 回光風会展	R3.4.14	岡田 正己	卒業
6	第 98 回春陽展	R3.4.17	内山 良子	Forest in the light II
7	第 87 回東光展	R3.4.26	市丸 未来	光～2021～
8	第 95 回国展	R3.4.28	宋 貴美子	escaping girls
9	第 116 回太平洋展	R3.5.12	守屋 仁美	芍薬
10	第 87 回旺玄展	R3.5.23	山崎 良太	銀河鉄道
11	第 35 回記念公募日洋展	該当者なし		
12	第 74 回女流画家協会展	R3.5.30	千野季帆子	なんでもないこと
13	第 77 回現展	R3.6.5	櫻井 公祐	想色像
14	第 108 回日本水彩展	R3.6.8	柴田 治	境界領域
15	第 105 回記念二科展	R3.9.1	平林 直哉	時の港—惜愛
16	第 84 回新制作展	R3.9.16	角野 泰範	定年後此処デ暮ラソウ
17	第 75 回行動展	R3.9.18	重田 園子	波の声
18	第 82 回一水会展	R3.9.23	森 和彦	それぞれのかたち
19	第 74 回二紀展	R3.10.16	阿部 達也	Tokyo,昭島
20	第 88 回版画展	R3.10.17	本田 将也	ワインとワイフ
21	第 88 回独立展	R3.10.23	宮澤 悟	銀身 I
22	第 98 回白日会展	R4.3.23	亀山 裕昭	林檎舎

5. 広報・情報収集活動

<1> 広報活動

(1) 展覧会の広報活動

① マスコミ等への働きかけ

- ・展覧会ごとにプレスリリースを作成し、内覧会を開催した。
- ・館長による取材対応
 - 「人生 100 年モーゼスおばあさんが描く幸せの風景」(BS-TBS 5/8 放送)、
 - 「東京新聞」「日刊自動車新聞」「日刊工業新聞」「保険毎日新聞」
 - 「読売新聞アートナビ」
- ・「美術館 REPORT2021」の刊行(3月)
- ・マスメディアへの広報活動や取材窓口は(株)ウインダムに、一般からの問い合わせはハローダイヤルに業務委託した。

- ② 国や自治体との連携
 - ・文化庁が運営する「バーチャル日本博」において当館のブースを公開した。
 - ・文化庁による日本全国の文化プログラムを紹介する取組として、若者に人気の YouTuber による「FACE展2022」鑑賞動画の配信に協力した。(3/29 配信)
 - ・「FACE展2022」「シダネルとマルタン展」では新宿区の後援を申請し、区の機関紙、公式 HP イベント情報等で紹介してもらうとともに、行政機関でチラシを配布してもらった。
 - ・新宿区の教育広報誌「しんじゅくの教育」(4月25日号)において、当館での区立小中学校の鑑賞会が紹介された。
- ③ 損保ジャパン及びグループ会社との連携
 - 全国店舗での展覧会ポスター掲示・チラシ配布等により、一般への告知を実施。「絵画のゆくえ2022」「FACE展2022」では損保ジャパンが運営するコンテンツサイト「SOMPO Park」と連携し、展覧会情報に関するメールマガジンの配信や予告動画視聴キャンペーンを実施した。
- ④ その他連携
 - ・「川瀬巴水展」では東京美術と連携し、全国書店で開催する「川瀬巴水フェア」に合わせ、関連書籍(3種)に展覧会告知オビを巻いて販売してもらった。
 - ・美術アプリ「ArtSticker」やみずほプレミアムクラブ、アートフェア等と提携し、展覧会情報を発信した。
- ⑤ 他の美術館、大学との連携
 - ・ポスター・チラシの掲出・配布に関し他館と連携し、大学や教育機関等へ掲出依頼を行った。
 - ・インターネットミュージアムの「学芸員が選ぶ おすすめミュージアム」で紹介された。

(2) 当館ウェブサイト、SNS等による情報発信

- ① 当館ウェブサイトでは、展覧会情報、美術館利用案内、FACE公募規定、グッズ通販等の案内、財団の公告や情報公開のほか、チケット販売サイトや収蔵品データベース等の外部サイトとの連携など閲覧者ニーズに対応した。
- ② 当館の YouTube に展覧会予告動画を投稿したり、Twitter、Instagram を活用し、計画的に展覧会情報を発信した。
- ③ 「風景画のはじまり」では、Instagram でエリア情報としてハイアットリージェンシーの「ひまわりアフタヌーンティーセット」と新宿中央公園のひまわり畑を紹介した。
- ④ フォトスポットの設置や展示作品の撮影許可等により、来館者によるSNS上での「良い口コミ」の拡散を図った。

(3) 広告の実施など

- ① 東京メトロ乃木坂駅への展覧会ポスター掲出(通年)
- ② 京王線や大江戸線都庁前駅での交通広告実施
- ③ 「美術の窓 12月号」「美術展びあ 2022」等への次年度展覧会情報の掲載
- ④ Twitter 広告やチケット購入者情報を活用したメールマガジンの配信により展覧会情報を告知した。

<2> 情報収集活動

主に都内で開催される内覧会等への出席のほか、WEB 会議や他館訪問等により情報交換・情報収集を行った。

6. 公共への協力

<1> 当館学芸員が以下の審査員を務めた。

(1) 児童画展(新宿消防署主催)

(2) 新宿区生涯学習フェスティバル絵画展((公財)新宿未来創造財団、新宿区立新宿文化センター主催)

<2> 当館学芸員が新宿区立西新宿中学校での「職業人の話を聞く会」において講義を行った。

<3> 東京都心の東京革命推進協議会主催「都民ふれあいの日」及び新宿区主催「来て・見て・楽しい フィールドミュージアム」は休止となっている。

<4> 感染症まん延防止の観点から学芸員資格取得のための博物館実習は休止した。

<5> 「シダネルとマルタン展」会期中、館内に募金箱を設置するとともに、当館のゴッホ《ひまわり》ポストカードの売上の半額をウクライナ全域と近隣国で脆弱な立場にある子どもたちとその家族、避難民などの支援のために活動する団体に寄付することを決定した。

II. 法人の概況

1. 沿革

1976年6月1日 財団法人安田火災美術財団設立

1976年7月8日 東郷青児美術館を損保ジャパン本社ビル42階に開設

1987年4月1日 安田火災東郷青児美術館に館名変更

2002年7月1日 財団法人損保ジャパン美術財団に名称変更

損保ジャパン東郷青児美術館に館名変更

2010年4月1日 公益法人に移行し、公益財団法人損保ジャパン美術財団に名称変更

2014年9月1日 公益財団法人損保ジャパン日本興亜美術財団に名称変更

東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館に館名変更

2020年4月1日 公益財団法人SOMPO美術財団に名称変更

SOMPO美術館に館名変更し、新美術館棟へ移転

2. 定款に定める目的

この法人は、絵画、彫刻等の美術作品を収集し、保存するとともに広く一般の鑑賞に供し、併せて新進の創作を奨励し、もって我が国芸術文化の振興と国民生活の向上に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

(1) 美術作品の収集、保存、公開

(2) 展覧施設の運営管理

(3) 美術家の支援、表彰

(4) 美術鑑賞の教育普及

(5) 頒布品の製作、販売

(6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

4. 主たる事務所

東京都新宿区西新宿一丁目26番1号

5. 役員等に関する事項

2021年度末現在

職名	氏名	就任日	主な現職	最初の就任日
理事長 代表理事 (非常勤)	二宮 雅也	2020.7.29 (理事長就任) 2020.7.15 (理事就任)	損害保険ジャパン(株)取締役会長	2016.1.21 (理事長就任) 2015.12.17 (理事就任)
専務理事 業務執行理事 (常勤)	梅本 武文	2021.6.25	SOMPO美術館館長	2021.6.25
理事 (非常勤)	寺坂 公雄	2020.7.15	画家、日本芸術院会員、 (公社)日展顧問、(一社)光風会顧問	1987.3.25
理事 (非常勤)	千足 伸行	2020.7.15	広島県立美術館館長、 成城大学名誉教授	1998.6.24
理事 (非常勤)	樺山 紘一	2020.7.15	(公財)渋沢栄一記念財団理事長、 東京大学名誉教授	2008.6.24
理事 (非常勤)	今野 秀洋	2020.7.15	(一財)貿易・産業協力振興財団理事長	2016.6.29
理事 (非常勤)	山脇 晴子	2020.7.15	中央更生保護審査会常勤委員	2018.6.29
監事 (非常勤)	新里 智弘	2020.7.15	公認会計士	2007.6.19
監事 (非常勤)	内田 満雄	2020.7.15	公認会計士	2016.6.29
評議員 (非常勤)	真室 佳武	2018.6.29	鎌倉市鏑木清方記念美術館館長	2005.6.14
評議員 (非常勤)	國分 正明	2018.6.29	元(一社)教職員生涯福祉財団会長	2006.6.24
評議員 (非常勤)	高階 秀爾	2018.6.29	(公財)大原美術館館長、 (公財)西洋美術振興財団理事長	2006.6.24
評議員 (非常勤)	遠山 敦子	2018.6.29	(公財)トヨタ財団顧問	2006.6.24
評議員 (非常勤)	宝木 範義	2018.6.29	美術評論家	2008.6.24
評議員 (非常勤)	小佐野 重利	2018.6.29	東京大学フューチャーセンター推進機 構特任研究員、東京大学相談支援研 究開発センター特任教授、 東京大学名誉教授	2009.3.31
評議員 (非常勤)	馬越 陽子	2018.6.29	画家、独立美術協会会員、女流画家協 会委員、日本芸術員会員	2012.6.29
評議員 (非常勤)	加藤 種男	2018.6.29	Active Archipelago 共同代表 クリエイティブ・ディレクター	2016.6.29

職名	氏名	就任日	主な現職	最初の就任日
評議員 (非常勤)	越川 倫明	2018.6.29	東京藝術大学教授	2016.6.29
評議員 (非常勤)	斎藤 勝利	2020.7.15	第一生命保険(株)特別顧問	2020.7.15
評議員 (非常勤)	水越 雅信	2020.7.15	DIC(株)常勤顧問、 DIC川村記念美術館館長	2020.7.15
評議員 (非常勤)	酒井 香世子	2021.6.25	損害保険ジャパン(株) 取締役執行役員	2021.6.25
評議員 (非常勤)	松本 泰二	2021.6.25	損害保険ジャパン(株)広報部長	2021.6.25
評議員 (非常勤)	丸木 崇秀	2021.6.25	損害保険ジャパン(株) サステナビリティ推進部長	2021.6.25
評議員 (非常勤)	吉利 潤治	2021.6.25	損害保険ジャパン(株)人事部 総務・健康開発センター担当部長	2021.6.25

6. 職員に関する事項

2021年度末現在

職名	氏名	就業年月日	担任業務	備考
事務局長	太田 裕也	2021.4.1	事務局事務統括	損害保険ジャパン(株)より出向
部長	村田 明弘	2018.4.1	事務局長補佐	損害保険ジャパン(株)より出向
学芸課長	五十嵐 卓	1999.4.1	資料の収集・保管・展示、 調査研究、その他専門的業務	
主任学芸員	小林 晶子	1997.9.1	〃	
主任学芸員	中島 啓子	1997.10.1	〃	
主任学芸員	江川 均	1998.4.1	〃	
学芸員	武笠 由以子	2017.10.1	〃	
学芸員	岡坂 桜子	2019.1.1	〃	
事務主任	出口 知子	1999.10.1	財団総務・美術館運営事務等	
事務職員	本條 志穂	2003.10.1	美術館運営事務、広報事務等	
事務職員	池田 美紀	2012.4.1	美術館運営事務、財団総務等	
事務職員	杉本 典子	2012.4.1	美術館広報事務等	
事務職員	吉井 有紀	2013.4.1	鑑賞教育事務、広報事務等	

7. 役員会等に関する事項

<1> 理事会

開会年月日	議事事項等	会議の結果
2021年5月28日	定款第39条に基づく理事会報告の省略による報告 ■報告事項 理事の利益相反取引の報告	
2021年6月2日	定款第38条に基づく理事会決議の省略による決議 ■決議事項 定時評議員会の開催 2020年度事業報告及び決算報告の承認	原案どおり可決 原案どおり可決
2021年6月25日	■決議事項 館則の改定 専務理事の選定 定例役員報酬の承認 ■報告事項 活動状況報告 (2021年3月8日～2021年6月20日) 理事長・専務理事の職務執行状況 (2020年3月16日～2021年6月20日)	原案どおり可決 梅本武文理事を 専務理事に選定 原案どおり可決
2022年3月29日	■決議事項 2022年度事業計画及び収支予算等の承認 2023年度展覧会の開催 特定費用準備資金の積立 役員等賠償責任保険契約の締結 個人情報の保護規程等の改定 ■報告事項 活動状況報告 (2021年6月21日～2022年3月18日) 理事長・専務理事の職務執行状況の報告 (2021年6月21日～2022年3月18日)	原案どおり可決 原案どおり可決 原案どおり可決 原案どおり可決 原案どおり可決

<2> 評議員会

当年度も一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第194条及び第195条に基づく決議の省略及び報告の省略による決議、報告とした。

開会年月日	議事事項等	会議の結果
2021年6月25日	■決議事項 2020年度決算報告の承認 評議員の選任 理事の選任 ■報告事項 2020年度事業報告	原案どおり可決 原案どおり選任 原案どおり可決

8. 許可、認可、届出、承認及びその他の重要事項

届出等年月日	申請等事項
2021年6月4日	東京都及び文部科学省へ「青少年を対象とした取組等に関する実績報告(2020年度)」を提出
2021年6月30日	内閣府へ2020年度事業報告等を提出
2021年7月9日	東京都へ登録博物館の登録事項(館長、館則)の変更届を提出
2021年7月18日	内閣府へ評議員及び理事の変更届を提出
2021年11月1日	健康保険組合連合会東京連合会による健康優良企業銀の認定
2022年2月28日	文化芸術振興費補助金(コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業)として、39,837,000円を受領
2022年3月30日	内閣府へ2022年度事業計画書等を提出
2022年3月31日	令和2年度文化芸術振興費補助金(文化施設の感染症防止対策事業)として、162,554円を受領

9. 寄付金等に関する事項

寄付の目的	寄付者	領収金額
公益目的事業に充当	損害保険ジャパン(株)	56,700,000円
	法人・団体 26件	5,110,000円
	個人 44件	2,175,000円
収益目的事業に充当	団体 1件	500,000円
法人の管理運営に充当	損害保険ジャパン(株)	21,300,000円

10. 行政庁指示に関する事項

該当なし

11. その他

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書は、特記事項がないため作成していない。

以上